

## 新町家のすすめ 建築実例 物件情報シート

建物名： I 様邸

### 建物写真



### 建物概要

行政区： 下京区

建築年： 2018 年

敷地面積：(任意) 82 m<sup>2</sup>

建築面積：(任意) 63.95m<sup>2</sup>

延べ面積：(任意) 159.21m<sup>2</sup>

構造： 木造

階数： 3 階建

本体価格：(任意)

建築主：(任意) I 様

設計者：(株)棲み家 チーフデザイナー 増田卓斗 施工者：(株)棲み家

### 設計コンセプト・ポイント

お施主様からお話を頂いた時にはすでにお土地を購入済みで、今回は「その土地に相応しい建築物を」というところからのスタートでした。

古くからの京町家が立ち並び、景観を無視して建てることは非常にもったいない地域でした。間口の小さい敷地形状であるため、設計開始の第一段階は京町家風で、通り土間や坪庭を計画していました。今までに住んでおられたお住まいが非常に広々としていたので、今回の提案で「敷地のせいで狭くなった」と思ってしまうような視線の動きや光の操作をし、実際の土地の広さを超える空間を感じられるような演出にお施主様共々取り組みさせて頂きました。

該当する指針の欄に、具体的な内容を記入してください(取り入れていない指針の欄は空白で可)

指針1 まちに暮らす ～隣地の状況を踏まえて建物配置を計画する～



京都の住宅は間口が狭く、隣地との距離が殆どない場合が多くあります。

そのような場合でも隣家にお住まいの方にご説明し、ご納得いただいた上で建築可能な範囲までギリギリ広く建物を計画し、施工致します。地域の方との関係づくり、お施主様の快適な新築での暮らし、いずれも大切にしながら、工事を進めていっております。

隣家に迫った地域なので、建物側面にはほとんどの窓は配置せず、正面と裏、天窗を利用して居室には自然光が注ぐプランニングとなっています。(指針1-2)

インナーガレージとすることで、隣家と建物の配置列が揃って見える計画となっています。(指針1-1) また、格子の4枚引戸を全開放することで、地域とのつながりができ、多機能な空間としての利用も可能です。(指針1-3)

指針2 場所になじむ ～地域特性や歴史を踏まえて設計する～



細長い敷地を生かし、まるで2階建てに見えるようなプランニングと、1階の造り付けの4枚格子戸・2階ベランダの落下防止用の格子が街並みに溶け込んでいます。(指針2-2)

京町家のデザインを取り入れるため、昔は防火の用途で付けられていた「うだつ」と呼ばれる袖壁を両側に設けています。

指針3 季節や自然を楽しむ ～季節や自然を楽しめるよう工夫する～



ストリップ階段の奥に足元から天井までのFIX窓を設け、そのさらに奥の緑が見える設計をしました。階段の下には白い玉石を敷き詰め、さわやかに和風感を演出。

階段の左手は中庭になっていて、大きな窓を配置しています。奥へ進んだ先にある和室に光を取り入れるにも役立っており、また、夏場は窓を開けると吹き抜けた中庭からの風がふんだんに吹き降ろしてきます。(指針3-1, 3-3) 外壁面はしっくい下地の役割も担う炭化コルクとロックウールのダブル断熱で高い断熱仕様になっています。壁内に湿気が入らないように気密シートも施工し、より安心な仕上がりに。(指針3-3)

指針4 大切に使う ～大切に長く使い続けられるよう工夫する～



壁は無添加しっくい、床は無垢の木を使用し、手入れはご自身で簡単にしていただける素材です。(指針4-2)

気づいた時にちょっと手入れをしてもらえれば、張り合わせの素材たちよりもずっと長持ちします。

時がたてば焼けた木部が飴色に代わり、より一層重厚な風合いに様変わり。この経年変化も楽しんで味わっていただける方におすすめです。(指針4-3)

## 指針5 和の技を感じる ～伝統技術・技能をいかす～



全体的にすっきりとしたデザインを好まれるお施主様ですので、畳は縁なしに。障子は温熱調整とカーテンの役割を担っています。(指針5-2)

ちょっとした遊び心で躡り口(にじりぐち)のような子引戸を造作。開けると階段下に配置した白玉石の掃除ができるようになっています。(指針4-1)



外部2階の格子・ガレージ用の4枚格子戸は木製で制作したもの。準防火地域なので本来外部に木を使うことができませんが、「うだつ」があることで延焼ラインを避けることができます。また、白い壁面は無添加しっくい仕上げ。劣化がないしっくいは外壁仕上げにもおすすめしています。(指針5-1)

